



## 2019年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2018年8月8日

上場会社名 株式会社博展

上場取引所 東

コード番号 2173 URL <https://www.hakuten.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 田口 徳久

問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営本部長 (氏名) 田中 雅樹

TEL 03-6278-0010

四半期報告書提出予定日 2018年8月10日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2019年3月期第1四半期の連結業績(2018年4月1日～2018年6月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年3月期第1四半期	2,658	17.5	63		61		80	
2018年3月期第1四半期	2,263	27.7	13		11		23	

(注) 包括利益 2019年3月期第1四半期 80百万円 ( %) 2018年3月期第1四半期 27百万円 ( %)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年3月期第1四半期	20.79	20.20
2018年3月期第1四半期	6.09	

(注) 2018年3月期第1四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益は、1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2019年3月期第1四半期	5,281	1,045	19.8	271.07
2018年3月期	5,258	1,067	20.3	276.74

(参考) 自己資本 2019年3月期第1四半期 1,045百万円 2018年3月期 1,066百万円

(注) 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、前連結会計年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年3月期		0.00		16.00	16.00
2019年3月期					
2019年3月期(予想)		10.00		10.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2019年3月期の連結業績予想(2018年4月1日～2019年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	5,100	4.3	26		19		9		2.33
通期	12,500	6.1	500	9.8	487	7.7	320	34.7	83.00

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

## 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有  
新規 社 (社名) 、 除外 1 社 (社名) タケロボ株式会社
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2019年3月期1Q	3,855,200 株	2018年3月期	3,855,200 株
期末自己株式数	2019年3月期1Q	22 株	2018年3月期	22 株
期中平均株式数(四半期累計)	2019年3月期1Q	3,855,200 株	2018年3月期1Q	3,855,200 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	9
3. 補足情報	10
生産、受注及び販売の状況	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

(単位:百万円)

	前第1四半期 連結累計期間	当第1四半期 連結累計期間	増減額	増減率 (%)
売上高	2,263	2,658	395	17.5
売上総利益 (%)	609 (26.9)	705 (26.5)	95	15.7
営業利益又は営業損失(△) (%)	△13 (△0.6)	63 (2.4)	76	—
経常利益又は経常損失(△) (%)	△11 (△0.5)	61 (2.3)	73	—
親会社株主に帰属する四半期 純利益又は親会社株主に帰属 する四半期純損失(△) (%)	△23 (△1.0)	80 (3.0)	103	—

(注) 売上総利益、営業利益又は営業損失、経常利益又は経常損失及び親会社株主に帰属する四半期純利益または親会社株主に帰属する四半期純損失の下段に記載している数値は、それぞれ売上高に対する割合を示しております。

当社グループの主要領域である広告・イベント業界においては、経済産業省「特定サービス産業動態統計調査」(2018年7月18日発表)によると、広告業のうちSP・PR・催事企画における売上高は、2017年6月から2018年5月の累計実績が前年同期比93.1%と減少傾向にあります。このような環境の中、当社グループは、新たに設定した中期ビジョン「ココロ揺さぶる瞬間(とき)を創り、世の中を次へ動かす」の実現に向けて取り組んでおります。

当事業年度におきましては、安定した採算構造の確立を目指すべく、顧客に寄り添う課題解決型の営業活動による指名受注の増加と、各商材で培ったノウハウを活かし顧客1社あたりの売上高の向上に取り組むと共に、採算性を重視した業務オペレーションの実行等によりプロジェクト毎の利益確保に注力しております。また、販売費及び一般管理費率の改善を図るべく徹底したコスト管理を継続することで、更なる収益力の強化を図っております。その上で、次の成長に向けた経営基盤の構築を推進すべく、以下の重点分野にフォーカスした投資を行ってまいります。

- ① Experience Marketingに関する専門性の高い人材の採用・育成への投資
- ② リアル接点におけるマーケティング効果に資する新商材開発への投資
- ③ 業務効率化、生産性向上に資するシステム開発への投資

この結果、当第1四半期連結累計期間における売上高は、26億58百万円(前年同四半期比17.5%増)となりました。各商材カテゴリー別の売上高の状況は、次のとおりです。

（単位：百万円）

	前第1四半期 連結累計期間	当第1四半期 連結累計期間	増減額	増減率 (%)
展 示 会 出 展	925	838	△86	△9.4
イ ベ ン ト プ ロ モ ー シ ョ ン	402	690	288	71.7
商 談 会 ・ プ ラ イ ベ ー ト シ ョ ー	390	562	171	44.1
カ ン フ ェ レ ン ス ・ セ ミ ナ ー	73	74	1	2.1
商 環 境	258	292	33	13.1
デ ジ タ ル ・ コ ン テ ン ツ & マ ー ケ テ ィ ン グ	178	176	△2	△1.3
そ の 他	34	23	△10	△31.1
売 上 高 合 計	2,263	2,658	395	17.5

売上高増加の要因としまして、イベントプロモーションにおいては、自動車・化粧品・嗜好品などの業界を中心にターゲット顧客への顧客密着を強化し、案件単価が向上した事により、売上高が増加しました。商談会・プライベートショーにおいては、リピート案件を確実に受注できたことに加え、大型のプライベートショーや合同展示会の基礎案件を獲得し、案件数及び案件単価が伸長しました。

売上総利益は、7億5百万円(前年同四半期比15.7%増)、売上総利益率が26.5%（前年同四半期は26.9%）となりました。商材カテゴリー別の売上高構成により売上総利益率は低下したものの、前述の要因により売上高が増加したことに加え、採算性を重視した業務オペレーションを実行したこと等により、前年同四半期と比較して売上総利益は増益となりました。

販売費及び一般管理費は、6億42百万円(前年同四半期比3.1%増)、販売費及び一般管理費率が24.2%（前年同四半期は27.5%）となりました。これは、売上高の増加に対し、販売費及び一般管理費を前年並みの水準に維持すべく、コスト管理の徹底に取り組んだこと等によります。

この結果、営業利益は63百万円(前年同四半期は営業損失13百万円)、経常利益は61百万円(前年同四半期は経常損失11百万円)、親会社株主に帰属する四半期純利益は80百万円(前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失23百万円)となりました。

当第1四半期連結累計期間における報告セグメントの業績は、次のとおりです。

a. リアルエクスペリエンス&コミュニケーション事業<sup>※1</sup>

当第1四半期連結累計期間におけるリアルエクスペリエンス&コミュニケーション事業の売上高は、25億3百万円(前年同四半期比18.3%増)、セグメント利益は93百万円(前年同四半期比47.8%増)となりました。

これは、前述のとおり、売上高においては、イベントプロモーション及び商談会・プライベートショーを中心に売上高が増加したこと、セグメント利益においては、プロジェクト毎の利益確保に注力したことに加え、コスト管理の徹底に取り組んだことによるものです。

b. デジタルエクスペリエンス&コミュニケーション事業<sup>※2</sup>

当第1四半期連結累計期間におけるデジタルエクスペリエンス&コミュニケーション事業の売上高は、1億72百万円(前年同四半期比2.9%増)、セグメント損失は20百万円(前年同四半期はセグメント損失52百万円)となりました。

これは、売上高においては、グループ会社の株式会社アイアクトにてサービス提供を行っているAI関連事業の引き合いが増加する等、グループ各社の営業活動が堅調に推移したこと、セグメント利益においては、効率性を重視したコスト・マネジメントの徹底が図られたことで、前年同四半期比でセグメント損失が減少しました。

- ※1. 展示会・イベント等、人と人が直接出会う“場”・“空間”において、様々な体験価値を通じて提供される製品・サービスの宣伝・販売活動を「Experience マーケティング」と位置付け、“コミュニケーション”に関わるあらゆる「表現」「手段」「環境」を最適化し“デザイン”することで、サービスを展開しております。
- ※2. インターネットを活用したビジネスモデルの策定から戦略的なWebサイト構築やアプリケーション制作をはじめとし、ビジネス向けアプリ制作・配信・管理プラットフォームやAI・コグニティブ領域、ロボティクスなど、最先端のデジタル・テクノロジーを集積し“デザイン”することでサービスを提供しています。

## (2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における財政状態は、資産合計52億81百万円(前連結会計年度末比0.4%増)、負債合計42億35百万円(前連結会計年度末比1.1%増)、純資産合計10億45百万円(前連結会計年度末比2.0%減)となりました。

### (流動資産)

当第1四半期連結会計期間末における流動資産の残高は39億78百万円(前連結会計年度末比65百万円増加)となりました。これは、受取手形及び売掛金が前連結会計年度末比6億22百万円減少したものの、現金及び預金が前連結会計年度末比5億88百万円増加したこと、仕掛品が前連結会計年度末比63百万円増加したことが主な要因となっております。

### (固定資産)

当第1四半期連結会計期間末における固定資産の残高は13億3百万円(前連結会計年度末比41百万円減少)となりました。これは、繰延税金資産が前連結会計年度末比29百万円減少したこと、のれんの償却により前連結会計年度末比13百万円減少したことが主な要因となっております。

### (流動負債)

当第1四半期連結会計期間末における流動負債の残高は35億2百万円(前連結会計年度末比2億57百万円増加)となりました。これは、買掛金が前連結会計年度末比2億70百万円減少したこと及び未払法人税等が前連結会計年度末比2億14百万円減少したこと、また、賞与引当金が前連結会計年度末比1億72百万円減少したものの、短期借入金が9億38百万円増加したことが主な要因となっております。

### (固定負債)

当第1四半期連結会計期間末における固定負債の残高は7億33百万円(前連結会計年度末比2億12百万円減少)となりました。これは、約定返済により長期借入金が前連結会計年度末比2億4百万円減少したことが主な要因となっております。

### (純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産の残高は10億45百万円(前連結会計年度末比21百万円減少)となりました。これは、親会社株主に帰属する四半期純利益を計上したものの、配当を行ったことにより前連結会計年度末比22百万円減少したことが主な要因となっております。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第1四半期連結累計期間における業績経過は、概ね計画通りに推移しているため、第2四半期連結累計期間並びに通期の業績予想につきましては、2018年5月11日の決算発表時に公表いたしました業績予想から変更はございません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2018年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,140,747	1,729,588
受取手形及び売掛金	2,452,780	1,830,746
仕掛品	236,467	299,888
原材料及び貯蔵品	2,095	2,895
その他	83,438	116,413
貸倒引当金	△2,472	△1,422
流動資産合計	3,913,058	3,978,109
固定資産		
有形固定資産	261,368	257,261
無形固定資産		
のれん	163,041	149,454
その他	603,009	608,798
無形固定資産合計	766,050	758,252
投資その他の資産		
長期貸付金	—	61,000
その他	319,407	289,466
貸倒引当金	△1,223	△62,206
投資その他の資産合計	318,184	288,260
固定資産合計	1,345,603	1,303,775
資産合計	5,258,661	5,281,885
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	1,023,559	752,676
短期借入金	312,000	1,250,000
1年内返済予定の長期借入金	997,123	909,018
未払法人税等	219,138	4,919
賞与引当金	263,603	90,616
工事補償引当金	1,973	1,630
工事損失引当金	300	—
その他	426,446	493,247
流動負債合計	3,244,145	3,502,108
固定負債		
長期借入金	869,874	665,091
その他	76,821	68,734
固定負債合計	946,696	733,825
負債合計	4,190,841	4,235,933
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	174,449	174,449
資本剰余金	289,331	289,331
利益剰余金	597,931	575,909
自己株式	△27	△27
株主資本合計	1,061,685	1,039,663
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,205	5,375
その他の包括利益累計額合計	5,205	5,375
新株予約権	929	912
純資産合計	1,067,820	1,045,951
負債純資産合計	5,258,661	5,281,885

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)
売上高	2,263,356	2,658,569
売上原価	1,653,718	1,953,265
売上総利益	609,637	705,304
販売費及び一般管理費	622,788	642,159
営業利益又は営業損失(△)	△13,151	63,144
営業外収益		
受取配当金	81	80
物品売却益	3,925	—
貸倒引当金戻入額	—	1,448
雑収入	923	640
営業外収益合計	4,929	2,169
営業外費用		
支払利息	3,654	3,158
雑損失	0	350
営業外費用合計	3,654	3,509
経常利益又は経常損失(△)	△11,876	61,804
特別利益		
固定資産売却益	—	39
持分変動利益	—	47,539
特別利益合計	—	47,579
特別損失		
固定資産除却損	—	36
特別損失合計	—	36
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△11,876	109,347
法人税、住民税及び事業税	517	560
法人税等調整額	15,874	28,632
法人税等合計	16,391	29,193
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△28,267	80,154
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△4,785	—
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△23,482	80,154



(四半期連結包括利益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△28,267	80,154
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	374	170
その他の包括利益合計	374	170
四半期包括利益	△27,893	80,324
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△23,107	80,324
非支配株主に係る四半期包括利益	△4,785	—

（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更）

当第1四半期連結会計期間において、当社の連結子会社であるタケロボ株式会社は、マイカホールディングス株式会社を割当先とする第三者割当による新株式発行を行い、当社の持分比率が67.57%から18.25%に減少したため、連結の範囲から除外しております。

（追加情報）

（「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用）

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を当第1四半期連結会計期間から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2017年4月1日 至 2017年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	リアルエクス ペリエンス&コ ミュニケーシ ョン	デジタルエクス ペリエンス&コ ミュニケーシ ョン	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,113,726	149,629	2,263,356	—	2,263,356
セグメント間の内部売上高 又は振替高	2,679	18,470	21,149	△21,149	—
計	2,116,405	168,100	2,284,505	△21,149	2,263,356
セグメント利益又は セグメント損失(△)	63,386	△52,264	11,122	△24,273	△13,151

(注) 1. セグメント利益又はセグメント損失の調整額△24,273千円は、のれんの償却額△16,433千円、セグメント間取引△7,839千円であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	リアルエクス ペリエンス&コ ミュニケーシ ョン	デジタルエクス ペリエンス&コ ミュニケーシ ョン	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,502,965	155,603	2,658,569	—	2,658,569
セグメント間の内部売上高 又は振替高	104	17,297	17,401	△17,401	—
計	2,503,069	172,901	2,675,970	△17,401	2,658,569
セグメント利益又は セグメント損失(△)	93,694	△20,151	73,543	△10,399	63,144

(注) 1. セグメント利益又はセグメント損失の調整額△10,399千円は、のれんの償却額△13,586千円、セグメント間取引3,187千円であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。

## 3. 補足情報

## 生産、受注及び販売の状況

## ① 生産実績

当社グループは、企業や団体の広告活動・販促活動に伴う、情報伝達を目的とした各種イベント及びマーケティングツールの企画・制作・運営を主たる業務として行っており、生産実績を定義することが困難であるため、生産実績の記載はしていません。

## ② 受注状況

前第1四半期連結累計期間(自 2017年4月1日 至 2017年6月30日)

前第1四半期連結累計期間の受注状況をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	前第1四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年6月30日)			
	受注高(千円)	前年同四半期比 (%)	受注残高(千円)	前年同四半期比 (%)
リアルエクスペリエンス& コミュニケーション事業	2,753,062	119.8	2,927,533	161.5
デジタルエクスペリエンス& コミュニケーション事業	230,349	125.5	382,608	110.6
合計	2,983,411	191.0	3,310,141	153.3

(注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

当第1四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)

当第1四半期連結累計期間の受注状況をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)			
	受注高(千円)	前年同四半期比 (%)	受注残高(千円)	前年同四半期比 (%)
リアルエクスペリエンス& コミュニケーション事業	2,638,769	95.8	3,063,337	104.6
デジタルエクスペリエンス& コミュニケーション事業	143,737	62.4	370,741	96.9
合計	2,782,506	93.3	3,434,079	103.7

(注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

## ③ 販売実績

前第1四半期連結累計期間(自 2017年4月1日 至 2017年6月30日)

前第1四半期連結累計期間の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	前第1四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年6月30日)	前年同四半期比 (%)
リアルエクスペリエンス& コミュニケーション事業(千円)	2,113,726	127.3
デジタルエクスペリエンス& コミュニケーション事業(千円)	149,629	132.9
合計(千円)	2,263,356	127.7

(注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

当第1四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)

当第1四半期連結累計期間の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	前年同四半期比 (%)
リアルエクスペリエンス& コミュニケーション事業(千円)	2,502,965	118.4
デジタルエクスペリエンス& コミュニケーション事業(千円)	155,603	104.0
合計(千円)	2,658,569	117.5

(注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。